

HP Operations Orchestration

ソフトウェアバージョン:CP15 (9.x)

Windows および Linux オペレーティングシステム

リリースノート

ドキュメントリリース日 :2014年9月

ソフトウェアリリース日 :2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェア/パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

概要	6
新機能	7
サポートされているバージョン	7
新しい機能	7
OO Content Pack 15 のドキュメント	8
OO Content Pack 15 のインストール	9
HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード	9
OO Content Pack 15 の手動インストール	10
ローカル Central Server への OO Content Pack 15 のインストール	12
Windows	12
Linux	14
リモート Central Server への OO Content Pack 15 のインストール	15
Windows	15
Linux	16
OO Content Pack 15 のアンインストール	17
コンテンツパックフォルダーのバックアップ	17
インストールのロールバック	17
既知の問題	19
一般的な制限	24
サードパーティの制限 (Windows)	25
修正された不具合	26

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Pack 15 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

これは英語版と日本語版のリリースです。

OO Content Pack 15 は累積的なコンテンツパックであり、リポジトリとRAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

新機能

サポートされているバージョン

- HP Arcsight 統合バージョン 6.5 SP1 のサポートが追加されました。
- HP Operations Manager i 統合バージョン 9.24 のサポートが追加されました。
- HP SiteScope 統合バージョン 11.24 のサポートが追加されました。
- Microsoft Hyper-V Windows Server 2012 および 2012 R2 のサポートが追加されました。
- Microsoft PowerShell バージョン 4.0 のサポートが追加されました。
- VMware vCloud 統合バージョン 5.5 のサポートが追加されました。
- OpenStack 統合バージョン Icehouse のサポートが追加されました。

新しい機能

Microsoft Hyper-V 2012 の追加サポート

Hyper-V 統合のすべてのオペレーションに **version** という名前の新しい入力が増加されました。この入力の有効な値は、Hyper-V バージョン選択リストに含まれています。ユーザーが version 入力を指定しない場合、オペレーションがサーバーのバージョンを判定します。ただし、ユーザーがサーバーのバージョンを指定した方が、フローの実行が高速になります。

00 Content Pack 15 のドキュメント

00 Content Pack 15 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- HP Operations Manager i Integration Guide
- HP SiteScope Integration Guide
- VMware vCloud Director Integration Guide
- Microsoft Hyper-V Integration Guide
- HP Operations Orchestration Integration Support Matrix
- HP Operations Orchestration Operations and Flows

00 Content Pack 15 のインストール

00 Content Pack 15 は、既存の 00 プラットフォームバージョン 9.01.01 またはそれ以降にインストールすることを推奨します。

00 Content Pack 15 は、既存の Content Pack 14 コンテンツインストール上にインストールできます。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
00 Content Pack 15	9.00.01
00 Content Pack 15	9.05.0001
00 Content Pack 15	9.07
00 Content Pack 15	9.07.0005
00 Content Pack 15	9.07.0006
00 Content Pack 15	9.07.0007
00 Content Pack 15	9.07.0008

コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインする必要があります。

既存の 00 9.00 バージョンの上から 00 Content Pack 15 をインストールした後で、00 9.00 を再インストールした場合は、00 Content Pack 15 も再インストールする必要があります。

HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード

HP Live Network にある Operations Orchestration コミュニティページでは、サポートされるリリースの 00 と関連ドキュメントを検索してダウンロードできます。

注: コミュニティページを利用するには、HP Passport に登録してサインインする必要があります。

HP Passport ID に登録するには:

次のサイトにアクセスします:<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または

HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします

00 リリースとドキュメントをダウンロードするには:

1. HPLN サイト: <https://hpln.hp.com/> にアクセスします。HP Live Network の 1 ページが開きます。
2. 2 ページに移動し、**[Operations Orchestration]** の下の **[Content]** リンクをクリックします。



Operations Orchestration

[Announcements](#) | [Forum](#) | [Content](#)

Optimize operational cost and
Improve service quality by
enabling end-to-end IT
Process Automation

3. **[Content Catalog]** タブで、**[Operations Orchestration Content Packs]** を選択します。
4. **[Downloads]** リンクを選択します。
5. **[Downloads] > [HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックします。
6. **[HP Operations Orchestration Content Pack 15]** をクリックします。

00 Content Pack 15 の手動インストール

00 Content Pack 15 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。00 に付属する Java JRE (<00_HOME>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

00 Content Pack 15 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- ローカル Central Server にインストールする
- リモート Central Server にインストールする

ローカル Central Server への 00 Content Pack 15 のインストール

Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. [「HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード」\(9ページ\)](#)の手順に従って 00 Content Pack 15 インストーラーバージョンの **00_Content_Pack_15_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **【スタート】**メニューをクリックし、**【ファイル名を指定して実行】**をクリックします。
4. **【ファイル名を指定して実行】**ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **【OK】** をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。
コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```
6. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 15 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. **【スタート】**メニューから、**【すべてのプログラム】**、**【アクセサリ】**の順に選択します。
 - b. **【コマンド プロンプト】**を右クリックし、**【管理者として実行】**オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順の**ステップ 5**のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 15 をインストールする場合は、上記手順の **ステップ 5** で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL <デフォルト 以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても 00 Content Pack 15 をインストールする場合は、上記手順の **ステップ 5** のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -locale ja
```

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各 サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(9ページ)の手順に従って 00 Content Pack 15 インストーラーバージョンの **00_Content_Pack_15_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **ターミナル**を開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順の**ステップ 4**のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 15 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 4**で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても 00 Content Pack 15 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 4**のコマンドで、**-forcInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -forcInstall -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -home /root/00_H  
OME -locale ja
```

リモート Central Server への 00 Content Pack 15 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(9ページ)の手順に従って 00 Content Pack 15 インストーラーバージョンの **00_Content_Pack_15_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **【スタート】**メニューをクリックし、**【ファイル名を指定して実行】**をクリックします。
4. **【ファイル名を指定して実行】**ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **【OK】**をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central  
のパスワード> -locale ja
```

6. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 15 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. **【スタート】**メニューから、**【すべてのプログラム】**、**【アクセサリ】**の順に選択します。
 - b. **【コマンド プロンプト】**を右クリックし、**【管理者として実行】**オプションを選択します。

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network](#) での 00 リリースとドキュメントのダウンロード」(9ページ)の手順に従って 00 Content Pack 15 インストーラーバージョンの **00_Content_Pack_15_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **ターミナル**を開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_15_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

00 Content Pack 15 のアンインストール

00 には、インストールしたコンテンツパックをアンインストールするオプションが用意されていません。これは設計上の制限であり、Operations Orchestration バージョン 10 では解決されています。

インストールしたコンテンツパックをロールバックする唯一の方法は、コンテンツパックをインストールする前にバックアップを作成しておき、そのバックアップから 00 のフォルダー構造を復元することです。

コンテンツパックフォルダーのバックアップ

復元ポイントとして使用するバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. `<OO_INSTALLATION_DIR>\Central\rcrepo` フォルダーをバックアップします。
2. `<OO_INSTALLATION_DIR>\RAS\Java\Default\repository` フォルダーをバックアップします。
3. RSCentral および RSJRAS サービスを停止します。

インストールのロールバック

コンテンツパックをインストールした後で、インストールをロールバックする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. コンテンツパックのインストール後に変更または作成したフロー (存在する場合) をリポジトリにエクスポートします。リポジトリのインポートの詳細については、『Studio オーサリングガイド』の「リポジトリのインポート」を参照してください。
2. Central および RAS サービスを停止します。
3. 「[コンテンツパックフォルダーのバックアップ](#)」(17ページ)のステップ 1 と 2 で作成したバックアップ場所からファイルを復元します。
4. サービスを再起動します。
5. ステップ 1 で作成したリポジトリをインポートします。

注: リポジトリをインポートした後で、復元したフローのうち、アンインストールしたコンテンツパックのオペレーションを使用して作成されたものが無効と表示されることがあります。これは、コンテンツパックが初期設定の 00 オペレーションを更新して、新しい入力やレスポンスを追加しているためです。ステッ

プ3でCentralリポジトリを復元するときに、これらの入力は失われます。

既知の問題

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C10653	HTTP クライアントが接続を再利用しないため、パフォーマンスボトルネックが発生する	<p>各 OO RAS オペレーションは、次の点を考慮して1つのユニットとして設計されています。</p> <ul style="list-style-type: none">• 実行時にすべてのリソースが取得される• オペレーションの完了時に、取得されたリソースは解放される <p>ただし、何千ものステップに対してフローが同じオペレーションを順次使用する場合、RAS オペレーションは、各ステップで必要なリソースを再利用せずに再作成します。</p>
QCCR1D131214	「割り当て先の更新」オペレーション	<p>「/統合/Hewlett-Packard/Network Node Manager/9.0/インシデント」の下の「割り当て先の更新」オペレーションは、</p> <p>、「モデルを調査できません」例外エラーで失敗します。本来は、オペレーションは success を返し、assignTo の値は入力値として指定された値に変更されるはずですが。</p>
QCCR1D132829	「Get」および「Put」オペレーション	<p>「/オペレーション/リモートファイル転送/FTP」の下の「Get」および「Put」オペレーションは、</p> <p>type 入力に無効な値が指定された場合でも正常に完了します。</p>
QCCR1D135408	「割り算」オペレーション	<p>「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションは、</p> <p>0による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。</p>
QCCR1D135409	「割り算」オペレーション	<p>「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションを使用して</p> <p>、</p> <p>0.0を0.0で割ると、オペレーションは「BigIntegerの0除算」メッセージを出して失敗します。</p>

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D138276	RepositorySync プラグインの includePaths の説明	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/リポジトリ」フォルダーの「 RepositorySync 」プラグインの includePaths (含めるパス) の説明を明確にする必要があります。これは実際には、OS のシステムストレージパスではなく、リポジトリルートからの論理オフセットを示します。たとえば、「 自分のオペレーションフロー 」の下すべてのフローを含めるには、入力は「 ライブラリ/自分のオペレーションフロー 」である必要があります。excludePaths (除外するパス) についても、これと同じ説明を適用する必要があります。
QCCR1D138282	「 システムアカウントの設定 」および「 システムプロパティの設定 」オペレーション	新しいシステムアカウントを作成してチェックインした場合に、システムアカウントの ユーザー名 と パスワード の値が空であると、どのフローでもこれらの値を使用できません。このため、「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration」の下の「 システムアカウントの設定 」を使用することで、00 フローを実行してシステムアカウント値をリアルタイムで作成することはできません。 。「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration」の下の「 システムプロパティの設定 」オペレーションにも同じ動作が見られます。 。
QCCR1D138299	「 Base64 デコーダー 」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション」の下の「 Base64 デコーダー 」オペレーションは、 characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS で、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずですが。
QCCR8C14857	00 でフローをスケジュールするオペレーションで説明フィールドが設定されない	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジューリング」の下の「 フローのスケジュールオペレーション 」を使用して説明を持つフローをスケジュールした後、「 フロースケジュールの取得 」を実行してデータを取得し、「 スケジュール詳細情報の取得 」を使用すると、説明が空白です。
QCCR8C16166	「 オペレーティングシステム検出 」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される	「 オペレーティングシステム検出 」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されます。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「 文字列の比較 」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C17645	iLO3: 名前に日本語文字を含むユーザーを作成できない	「ユーザーの作成」フローを実行して日本語文字を含むユーザー名を作成しようとすると、オペレーションは失敗し、フローは作成されません。
QCCR1D145676	「フローのスケジュール」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジュールリング」の下の「フローのスケジュール」オペレーションは、ローカルリポジトリから 00 9.03 に対して実行した場合は失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に 00 9.03 で行われた変更によるものです。
QCCR1D145994	00 サンプルのセルフ統合	それぞれの説明に記されているように、「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローの実行/サンプル」の下の「フロー実行のステータスによるフィルター」および「前回の実行ステータスの取得」フローは、Central からのみ実行でき、Studio からは実行できません。ただし、Central ではフォルダーの場所 (ライブラリ/統合 など) が表示されません。 フローを実行するには、コマンドラインツール (JRSFlowInvoke.jar など) を使用する必要があります。あるいは、これらのフローをリポジトリ内の別の場所にコピーすれば、Central で実行することができます。
QCCR1D149698	「テンプレートの再デプロイ」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/」の下「テンプレートの再デプロイ」オペレーションは、ターゲットパスが無効であると、NullPointerException を生成して失敗します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D150316	「アプリケーションバージョンの取得」および「アプリケーションの取得」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」オペレーションの下の「アプリケーションバージョンの取得」オペレーションは 、 applicationId 入力が空のままだと <code>NullPointerException</code> を生成して失敗します。 「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」の下の「アプリケーションの取得」オペレーションは 、 filterBy に byApplicationId を割り当てて、 value に不具合説明の値を割り当てると、 NullPointerException を生成して失敗します。
QCCR1D150709	「テストの読み取り」フロー	「ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/テスト計画」の下の「テストの読み取り」フローは、 useLabels が true に設定されている場合と false に設定されている場合とで異なる結果を返します。
QCCR1D154222	「Ant スクリプト」フロー	「/オペレーション/Ant/Ant スクリプト」の下の「Ant スクリプト」フローの timeout 入力の値は、結果を返す際に考慮されません。
QCCR1D155726	「トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーションは 、 deploymentName および deploymentSetId 入力に無効な値が指定された場合でも成功しますが、デプロイメントは CDA 側で <code>NullPointerException</code> により失敗します。
QCCR1D155731	「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーションは、 realizedTopologyId 入力に無効な値が指定された場合でも、失敗せずに、結果を返さずに成功します。
QCCR1D155796	「コネクタのリスト」フロー	「/統合/Hewlett-Packard/ArcSight/サンプル」の下の「コネクタのリスト」サンプルフローは、シナリオがネガティブな場合にエラーメッセージを返しません。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D156392	Windows のエラーメッセージ	「/オペレーション/ファイルシステム/Windows のみ」フォルダーの下のオペレーションと、「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows」の下での「ping」および「経路探索」オペレーションは、ユーザー名またはパスワード入力が無効な場合に、Windows 2012 と Windows 2008 R2 で異なるエラーメッセージを表示します。
QCCR1D157920	「ホストからのデータストアの削除」オペレーション	「統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/ホスト/ストレージ」オペレーションの下での「ホストからのデータストアの削除」オペレーションは、dataStore に無効な値を指定して実行した場合に、vSphere 5.1 より前とは異なるメッセージを返します。
QCCR8C21646	「既存のディスクを VM に追加」、「新しいディスクを VM に追加」の各オペレーションが正しく動作しない	「統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成」の下での「新しいディスクを VM に追加」または「既存のディスクを VM に追加」オペレーションを実行すると、 、 8 つ以上のディスクを持つ仮想サーバーにアタッチしようとした場合に、エラーが発生します:
QCCR8C24073	クロスプラットフォームオペレーションで、「Zip の作成」で追加したファイルが破損する	日本語環境で、複数のサブフォルダーとファイルを持つディレクトリをクロスプラットフォームオペレーションで zip ファイルに追加した場合、zip 内の構造が追加したフォルダーと一致しません。
QCCR8C24833	パスワードに &、<、> のいずれかの文字が含まれている場合に VMWare オペレーションが接続できない	"&"、"<"、">" のいずれかの文字がパスワードに含まれていると、OO は接続できません。これは、使用する SDK がこれらのエスケープ文字をすでに変換した後で、OO オペレーションがさらに変換しようとするからです。このため、これらの文字は 2 回変換されます。
QCCR8C25230	「HTTP クライアント」の trustAllRoots のデフォルト値が 'true' である	「HTTP クライアント」オペレーションを HTTPS で使用する場合、trustAllRoots 入力を false に設定して、証明書を発行した証明書機関のチェックを有効にすることが推奨されます。 これらのオペレーションの説明ではデフォルト値が false であると記述されていますが、実際には指定が必要です。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C22983	00 9.x CP13 のインストールコマンドを日本語版 00 で使用すると、アラートメッセージが表示される	<p>CP13 を日本語版 00 に適用すると、2 種類のメッセージが表示されます。</p> <pre>Cannot find object in repo for UUID:<xxxx></pre> <pre>java.lang.RuntimeException:Unexpected NULL object while processing the line <nnnnn></pre> <p>これらのメッセージは無視できます。</p>
QCCR8C23806	「クロスプラットフォーム」の「ファイルからの読み込み」は、ファイルに日本語文字が含まれていると動作しない	<p>「ファイルからの読み込み」オペレーションは <code>returnCode=1;Result=1;count=0</code> を返し、無限ループに入ります。</p>
QCCR8C25324	CP15 および ACDC でホスト名またはユーザー名にローカライズされた文字 (すべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗する	<p>ホスト名またはユーザー名フィールドにローカライズされた文字 (英語以外のすべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗します。</p>

一般的な制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25082	「ローカルグループの作成」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない	<p>「ローカルグループの作成」オペレーションは、英数字以外の文字を使用した場合でも正常に完了します。ただし、オペレーションで例外が発生し、アカウントは作成されません。</p>

サードパーティの制限 (Windows)

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24692	日本語環境で「Windows イベントをログに記録」オペレーションが失敗する	<p>下記の問題のために、「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/イベントログ」の下に「Windows イベントをログに記録」オペレーションが日本語環境で失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none">severity フィールドは、英語の値のみを受け入れます。オペレーションの設計上、Language という名前の入力はありません。
QCCR8C24653	「サービスの開始モードの変更」オペレーションは、startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下に「 サービスの開始モードの変更 」オペレーションは、 startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗します。オペレーションは英語文字を使用すれば正しく動作します。
QCCR8C24662	「サービスの資格情報の変更」オペレーションは、serviceuser 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下に「 サービスの資格情報の変更 」オペレーションは、 serviceuser 入力に日本語文字を使用した場合でも正しく動作するようになりました。

修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、ALM 不具合 (QCCR) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C21892	Java HTTP クライアントを使用して HTTP PUT オペレーションを実行すると、Content Length ヘッダがないため失敗する	Content-Length の問題は解決されました。HTTP PUT オペレーションの実行に Content-Length が必要な場合でも、オペレーションは成功するようになりました。
QCCR8C23806	「クロスプラットフォーム」の「ファイルからの読み込み」は、ファイルに日本語文字が含まれていると動作しない	日本語環境で、「ファイルからの読み込み」オペレーションは、カウントとファイルの行数を正しく返すようになりました。
QCCR8C24056	JA - 「サービスステータスの変更」で入力が requestedstatus フィールドで一時停止するとオペレーションが失敗する。	requestedstatus フィールドの入力が一時停止すると、「サービスステータスの変更」オペレーションが失敗します。
QCCR8C24072	「FS 変更日」(FS/クロスプラットフォーム) で、システムが日本語にローカライズされている場合でも、threshold 入力が米国形式と見なされる	「/オペレーション/ファイルシステム/クロスプラットフォーム」の下の「FS 変更日」オペレーションでは、threshold 入力に日付を指定する必要があります。 返される日付結果が、日本語環境でも正しい形式になりました。
QCCR8C24073	クロスプラットフォームオペレーションで、「Zip の作成」で追加したファイルが破損する	日本語環境で、複数のサブフォルダーとファイルを持つディレクトリをクロスプラットフォームオペレーションで zip ファイルに追加した場合、zip 内の構造が追加したフォルダーと一致しません。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24076	「FS 名前の変更」(クロスプラットフォーム)で、すでに存在するファイルが上書きされない	「/オペレーション/ファイルシステム/クロスプラットフォーム」の下の「 FS 名前の変更 1 」オペレーションで、名前を変更するファイルの場所に newName 入力値と同じ値のファイルがすでに存在する場合、ファイルは正しく上書きされるようになりました。
QCCR8C24080	「コンピューターの再起動」(PowerShell) が有効な入力に対して実行されない	「/アクセラレーターパック/オペレーティングシステム/Windows/PowerShell/ユーティリティ」の下の「 コンピューターの再起動 」フローが正しく動作するようになりました。
QCCR8C24441	「FS 一時ファイルの作成」でカスタムサフィックスを追加する場合の説明が不明確	「 一時ファイルの作成 」オペレーションの説明が更新され、ファイル拡張子を定義するための正しい入力形式の説明が追加されました。
QCCR8C24692	日本語 OS で「Windows イベントをログに記録」オペレーションの実行エラーが発生する	「 Windows イベントをログに記録 」オペレーションは日本語オペレーティングシステムで実行した場合に正常に実行されるようになりました。
QCCR8C25040	オペレーション「ワークフローの起動」(VCO 統合) CP 14 でエラーが発生する	「 ワークフローの起動 」(VCO 統合) オペレーションは正常に実行されるようになりました。
QCCR8C25056	「SSH/共有セッション」オペレーションが ssh チャネルを再使用できない	セッションを使用する「 SSH/共有セッション 」オペレーション (例、「SSH シェル」) は、各コマンドに対して新規チャネルを開かなくなりました。
QCCR8C25071	「日付と時刻の取得」オペレーション (PowerShell) が ja ロケールで英語形式を返す	「PowerShell」の「 日付と時刻の取得 」オペレーションは、日本語環境で正しい形式を返すようになりました。
QCCR8C25076	「オブジェクトからフロー変数への変換」オペレーションが整数値を小数値に変換する	「/ユーティリティオペレーション/コンテナー/JSON/」の下の「 オブジェクトからフロー変数への変換 」オペレーションは、整数値を小数値に変換しなくなりました。
QCCR8C25272	「日付と時刻の取得」フロー:新しい入力のプロンプトメッセージがローカライズされていない	「/アクセラレーターパック/オペレーティングシステム/Windows/PowerShell/ユーティリティ」の下の「 日付と時刻の取得 」フローで、新しい入力 localeLang と localeCountry に対するプロンプトメッセージが日本語で表示されるようになりました。

